

袋井  
名刹

# 安養山西楽寺

柿葺の佇まい、  
厳かな仏像の寺

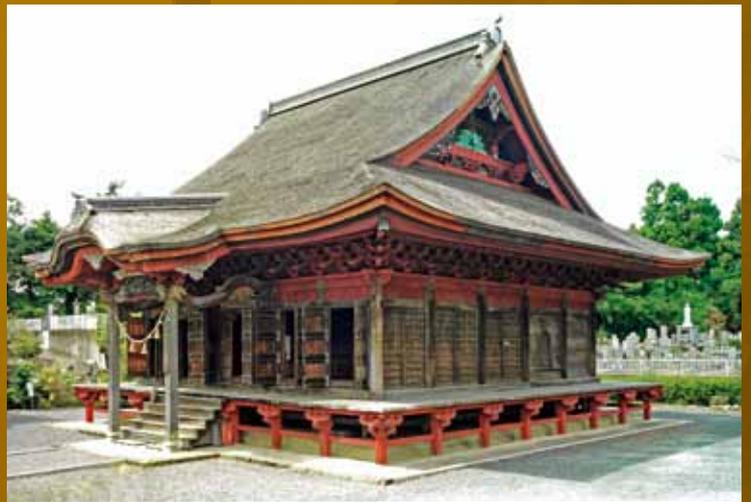
袋井市春岡



## 13 西楽寺木造阿弥陀如来坐像及び両脇侍坐像

平成8年11月18日  
県指定文化財彫刻

ヒノキ材の一木割刳造りで、平安時代末期の特徴を表している。像高は中尊53.9cm、右脇侍43.7cm、左脇侍48.1cm。中尊像の体内には、正応3(1290)年に修理したことが記されている。



## 10 西楽寺本堂

昭和55年11月28日  
県指定文化財建造物

平成の解体修理に際して発見された建物の部材に書かれた墨書によって、享保20(1735)年ごろに建てられたものであることがわかった。入母屋造り、こけら葺き。  
文化財ビデオ第8集『西楽寺本堂 平成大修理』。  
説明板あり。駐車場10台。

## 12 木造薬師如来坐像

昭和31年1月7日  
県指定文化財彫刻

ヒノキ材の一木割刳造りで、平安時代後期の特徴を表している。  
像高は84.0cm。





袋井市の北に位置する西楽寺は市内最古の寺。神亀元(724)年に聖武天皇の勅願により行基が開いたといわれる真言宗の古刹です。平安時代後期には真言密教の拠点道場として栄えました。その後は今川・豊臣・徳川氏との関係が深い寺であったことが、伝わる多くの文書から知ることができます。

新たに市指定文化財となった不動明王立像は像の銘文から、宝永7(1710)年、京都の鋳物師、常味製作のものと確認ができます。常味は近畿地方を中心に作品を残していますが、東日本では確認例が少なく、金銅仏の不動明王立像としては県内でも珍しいものです。本堂は享保年間に再建され、平成3年から3年半の工期をかけて大修理が行われました。



### 53 西楽寺朱印状

昭和62年5月11日  
市指定文化財古文書

豊臣秀吉が、寺から送られた小梅・山椒のお礼状。  
非公開。



### 38 西楽寺不動明王立像

平成22年2月24日  
市指定文化財彫刻

台座に記された銘文から、京都堀川の鋳物師である常味によって宝永7(1710)年に作られたことがわかる。銅鑄造製。像高129.0cm。  
〔撮影:大久保 治〕

